

高砂市歴史文化 基本構想(1)

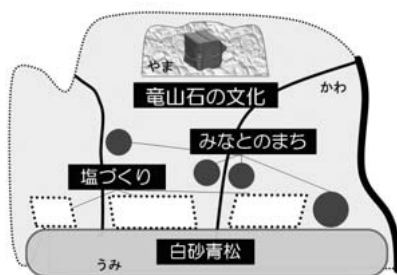
これまで連載してきた調査内容や委員会の議論などを踏まえて、高砂市の歴史文化基本構想の骨子がまとまりつつあります。これから三回連続して、その内容をご紹介します。

歴史文化基本構想

地域の歴史文化をひもとき、現在の地域の個性や魅力を形成する歴史文化の流れを再確認し、今後につなげていくための考え方や方策をまとめたものです。過去を振り返るだけでなく、将来、歴史文化をどうしていくかを考える構想です。

歴史文化のテーマ

歴史文化を見直すことで、高砂市の個性的な自然や歴史的役割を再確認できる効果的なテーマを設定します。これは、市民の皆さんが高砂市の魅力を発見し、誇りを見いだす視点で、地域の



個性や魅力を、将来へ受け継ぐ方策を考えるための手がかりとなります。

高砂市のテーマ

歴史文化のテーマは実は無数にあります。その中で、現段階で最もふさわしいと考えられるテーマを4つ設定しました。

白砂青松

白い浜辺に青い松の美しい風景は古くは万葉集にも謳われ、高砂市の心の原風景ではないでしょうか。明治以降の工業化でこうした風景は一見失われているようですが、目を凝らせば、その名残を発見することができます。



高砂海浜公園

文化財総合的把握モデル事業

ひと・まち・石

問合先 教育委員会
生涯学習課文化財係
☎448-8255

竜山石の文化

石の宝殿と竜山石切場



竜山石は赤、青、黄の三色を持つ美しい石です。高砂市でしか採れない石で、古代から採石され続け、全国に運ばれ使われています。高砂市内には古代・中世・近世・近代に使用された竜山石製品が無数に存在しています。これらの美しい石は高砂市の歴史的な風景の底辺を形作っています。また、広域的な交易拠点であった高砂市の歴史を物語る資源です。

みなとのまち

播磨灘に注ぐ加古川沿いに、古いみなとのまちが幾つも存在しています。高砂、伊保、今市、曾根など、それぞれ個性的なみなとのまちがあります。成立の年代や発展の過程がそれぞれ異なり、それを反映した個性的な歴史的建造物、歴史的町並み、祭礼などが残り、受け継がれています。これらのまちでは人と物が行き交い、交流が生まれ、文化が育まれました。文化交流拠点であった高砂市の役割

みなとのまちなみ（高砂町）



を、今に伝える重要な地域であるといえるでしょう。

塩づくり

製塩は近世・近代の高砂市を支えた主要産業でした。海岸に広がる浜辺を活用して多くの塩田がつくられました。現在は廃田となりましたが、製塩で栄えた集落や旧家の建物がまだ残っています。白砂青松も塩づくりも、豊かな高砂の海辺を将来に伝え、その再生を図

曾根塩田（昭和30年代）



る上で大きな手がかりとなるでしょう。